

主題 自分らしい表現を追求する子供が育つ図画工作科学習指導

副主題 省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫を中心に

うきは市立千年小学校
教諭 山口 洋子

こんな手立てによって…

思いや願いと形や色等を関連付けて表現の意味や価値をつくりだすことができるように、【収集】→【分析】→【再構成】という一連の省察的機能が働く中間鑑賞の活動を工夫した。

こんな成果があった！

図画工作科の学習における意識調査では、「自分の作品のよさを説明することができる」という項目のスコアが2.3→3.2になり、自分らしい表現の追求に効力感や有能感をもつ子供が育った。

1 考えた

本研究では、思いや願いと形や色、材料等との関連付けを自分の納得がいくまで繰り返して、「できそう」「できる」という効力感や有能感を味わう子供の姿を目指した。そのために、「表現のよさや不十分さを掘り起こす」→「よさや不十分さが生じた原因を分析する」→「よさをさらに磨いたり不十分さを克服したりする改善の方向性を見いだす」という省察的機能が働く中間鑑賞の活動を工夫した。そして、中間鑑賞の活動を重視した授業づくりの構想を、「表現の意味や価値を学び、味わうことができる題材の開発」、「省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成の具体化」及び「思いや願いと形や色、材料等との関連付けを促す具体的な支援の工夫」の3点から具体化することを考えた。さらには、子供の育ちを見取るアンケート調査の内容を開発した。

2 やってみた

省察的機能が働く中間鑑賞の活動を重視した授業づくりの有効性を、実践1－第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」、実践2－第6学年 題材「わたしのお気に入りの場所」の実践を通して検証した。実践1では、題材の開発と関連付けを促す具体的な支援の有効性を確かめることはできたが、題材構成の具体化については課題が明らかになった。そこで、実践2では、実践1の課題を踏まえて、作品の意味や価値を思いや願いに立ち返って説明できるようにすることが改善のポイントだと考え、作品鑑賞における活動構成を工夫した。

3 成果があった！

図画工作科の学習における意識調査の結果から以下の成果が明らかになった。

- ・自分の作品の意味や価値を、思いや願いに立ち返り自信をもって説明する子供が育った。
- ・自分らしい表現に納得する体験に基づいて、図画工作が「できる」と答える子供が増えた。

<目次>

主題 自分らしい表現を追求する子供が育つ図画工作科学習指導

副主題 省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫を中心に

1	主題設定の理由	3
	(1) 社会の要請から	3
	(2) 図画工作科教育の動向から	3
	(3) 子供の実態から	4
	(4) これまでの指導の反省から	4
2	主題の意味	5
	(1) 自分らしい表現の追求について	5
	(2) 自分らしい表現を追求する子供とは	6
3	副主題の意味	6
	(1) 省察的機能とは	6
	(2) 省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫とは	7
4	研究の目標	8
5	研究の仮説	8
6	研究の具体的な構想	9
	(1) 表現の意味や価値を学び、味わうことができる題材の開発について	9
	(2) 省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成の具体化について	9
	(3) 思いや願いと形や色、材料等との関連付けを促す具体的な支援の工夫について	10
	(4) 自分らしい表現を追求する子供の見取りについて	11
7	研究の実際	12
	(1) 実践1 第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」	12
	(2) 実践2 第6学年 題材「わたしのお気に入りの場所」	18
8	研究のまとめ	24
	(1) 研究の成果	24
	(2) 今後の課題	25

主題 自分らしい表現を追求する子供が育つ図画工作科学習指導

副主題 省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫を中心に

うきは市立千年小学校
教諭 山口 洋子

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

AIやビッグデータなどの最先端技術を活用した、国民が住みたいと思うよりよい未来社会を包括的に先行実現する「スーパーシティ」構想の具現化がせまっている。具現化への課題は、「技術の先進性」ではなく「住民の参画」である⁽¹⁾ということが指摘される中で、小学校図画工作科が担うのは、創造性を育むことであると考え。図画工作科では、従来から形や色等に豊かに関わる活動を通して、生活そのものを豊かに創造する資質や能力の育成を目指してきた。そのような資質や能力は、「住民の参画」につながる以下の行動を促すものである。

- ・予測がつかない変化に対して受け身になるのではなく、主体的に関わり、よりよく対応するために、自らのよさや可能性を発揮する。
- ・単に効率性を求めるのではなく、課題に対して自ら目的を考え、試行錯誤を重ねることで自分の考えをもったり、友達と協働してよりよい解決策を導き出したりする。

以上のことから、表現への思いや願いを具現化するために、「どんな」形や色、材料等を選択し、「どのように」表せばよいのかを、自他の造形的な見方・考え方を働かせながら追求する子供を育てる本研究に取り組むことは価値深いと考える。

(2) 図画工作科教育の動向から

学習指導要領における図画工作科の目標の柱書には、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とある。そして、造形的な見方・考え方は、「感性を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点でとらえ、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと」と定義されている⁽²⁾。つまり、造形的な見方・考え方を働かせながら表現したり、鑑賞したりする学習活動を充実させることが求められているのである。具体的には以下のような学習活動である。

- ・「この形にしたのは、～な感じが伝わると思ったから」「最初は違う色だったけど、～にはこの色が合うと思ったから」というように、思いや願いが軸になる学習活動。
- ・友達との学び合う過程で、友達もっている見方・考え方のよさや、友達の作品の美しさや面白さを感じ取り、自分の表現に生かすことを重視する学習活動。

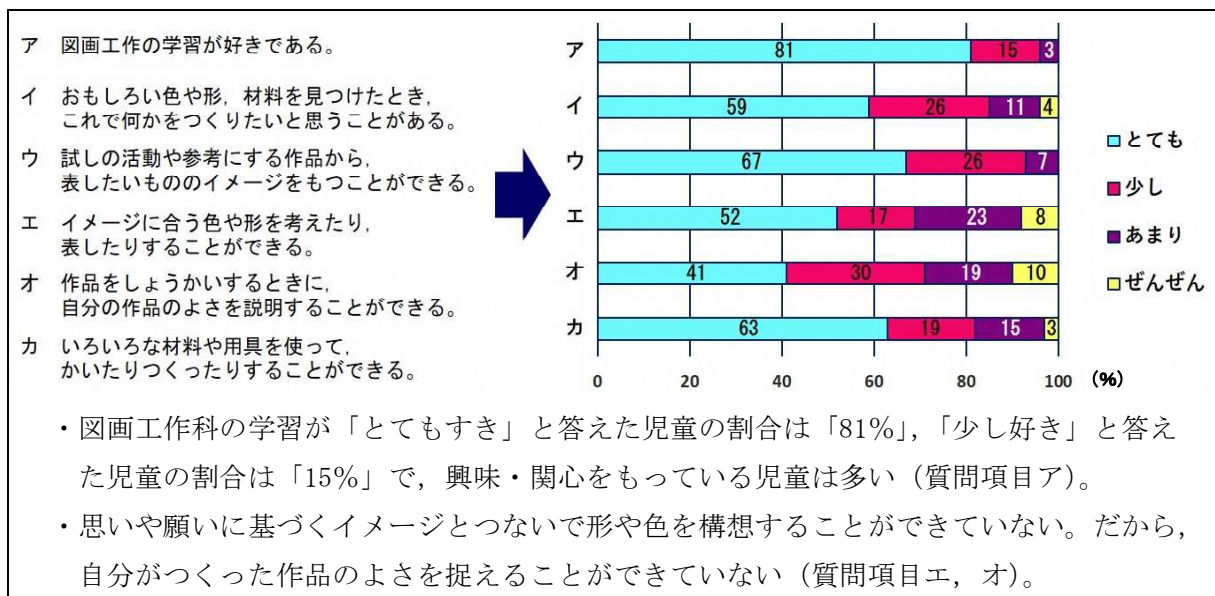
引用文献 (1) 「スーパーシティ構想」の実現に向けた有識者懇談会 (2019) 『スーパーシティ構想の実現に向けて』 内閣府

引用文献 (2) 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 図画工作編』 日本文教出版

子供が、思いや願いと形や色、材料等との関連付けを自分の納得がいくまで繰り返して、「できそう」「できる」という効力感や有能感を味わうことを求めていく本研究は、造形的な見方・考え方を働かせながら表現したり、鑑賞したりする学習活動を充実させる一方途であると考える。

(3) 子供の実態から

本研究の対象児童（28名）に対して、図画工作科の学習における意識調査を行った。意識調査の結果から明らかになった実態は資料1に示すとおりである。



資料1：図画工作科の学習における児童の意識

意識調査の結果から明らかになったのは、自分らしい表現を意識していないということである。

子供は、表したいもののイメージはもつが、つくる段階になると、思いや願いの具現化よりも「きれいに」「巧みに」という意識が勝り、効力感や有能感を味わうことができていない。

このことから、主題性と造形性を発揮しながら、思いや願いと形や色、材料等との関連付けを重視して造形的な活動の具体化を図る本研究は意義深いと考える。

(4) これまでの指導の反省から

平成28～29年度、「思いを表現につなぐ子どもを育てる図画工作科学習指導」という研究主題を設定し、造形要素を分析・総合する鑑賞の活動を工夫した授業づくりを実践した。その成果と課題は以下に示すとおりである。

成果：形や色等の造形的な視点からイメージを深化、発展させながら、表現の内容や方法を自分なりに選択して表現をつくらうとする姿がみられた。

課題：発想したことや構想の内容、表し方について話し合う言語活動の仕組みが曖昧だった。また、表現活動の途中でつまずくと、何を根拠に新たな表現の内容を構想すればよいかを明らかにすることができなかった。

そこで、本研究では、思いや願いに合う形や色、材料等を選択するための具体的な学習活動として、「あつめる」（収集）→「くらべる」（分析）→「みなおす」（再構成）という省察的な機能を生かした中間鑑賞の活動を工夫することを考えたのである。

2 主題の意味 — 自分らしい表現を追求する子供が育つ図画工作科学習指導 —

(1) 自分らしい表現の追求について

○ 自分らしい表現とは

対象や事象に自ら働きかけて表したいイメージをもち、そのイメージに合う形や色、材料などを考えたり、つくり方や表し方を工夫したりして、自分の思いや願いを具現化することである。

子供が「描いてみたい、つくってみたい」という欲求をもって表したり、つくったりすることは大事である。しかし、子供の表現欲求に基づいた造形活動のすべてが「自分らしい表現」ということではない。本研究では、図1に示すように【主題性】と【造形性】の面から「自分らしい表現」を捉える。

【主題性】…… 表現された内容（作品）について自分の思いや願いに基づいて意味付けをしたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができる。

【造形性】…… 形や色、材料等の造形要素に着目してイメージを広げたり、イメージに合う表現の内容や方法を自分なりに考えたりすることができる。

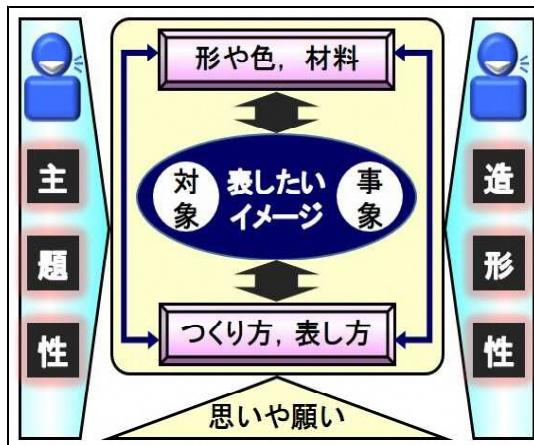


図1：「自分らしい表現」の構造

そして、「自分の表現のよさを捉えることができていない」という児童の実態（表参照）を踏まえて、特に【主題性】の面を重視する。根拠をもって「この形や色を見てほしい」「私だからこんな形を考えることができた」という自己表現的価値⁽³⁾を見いだせるようにするということである。

○ 自分らしい表現を追求するとは

主題性と造形性を発揮しながら、思いや願いと形や色、材料等との関連付けを自分の納得がいくまで繰り返して、「できそう」「できる」という効力感や有能感を味わうことである。

「この形にはこんな願いが込められている」「この色は自分の気持ちにぴったりだ」という意味や価値を見いだすということは、思いや願いと表現を関連付けるということである。この関連付けの連続・発展が「自分らしい表現の追求」ということである（図2），具体的な過程を以下のように考える。

関連付けを意識する …… 思いや願いに合う形や色、その組み合わせ等を発想しながら、表現の内容や方法を考える。

関連付けを試行する …… 視点の明確化を基に、思いや願いに合う形や色、その組み合わせを試行し、表現の意味や価値を探る。

関連付けに納得する …… 自分なりの根拠をもって、形や色、その組み合わせを選択し、表現の意味や価値を明確にする。

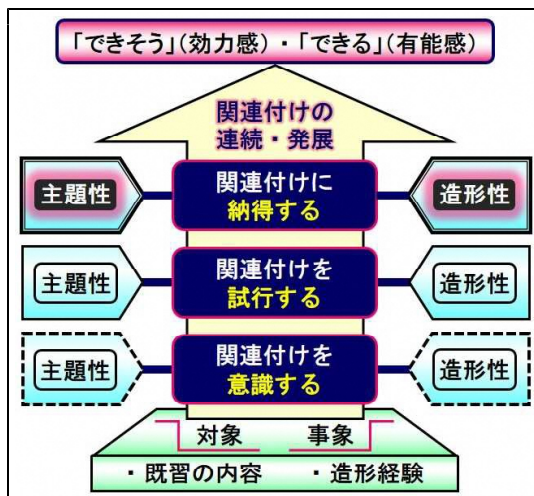


図2：「自分らしい表現」を追求する過程

引用文献 (3) デービッド・アーカー (2014)『ブランド論 — 無形の差別化をつくる20の基本原則 —』ダイヤモンド社

「自分らしい表現」を追求する過程において、子供は自分の願いに合う形、気持ちを伝えられる色などを求めて、自分なりの根拠を明確にしながら、納得が得られるよりよい表現をつくりだしていく。つまり、形や色等の造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす⁽⁴⁾「造形的な見方・考え方」が働くということである(図3)。このことから、本研究においては、主題性と造形性を発揮して「自分らしい表現」を追求することが「造形的な見方・考え方」を働かせることになる



図3：「造形的な見方・考え方」を働かせる姿

(2) 自分らしい表現を追求する子供とは

主題性と造形性を発揮しながら、思いや願いと表現の関連付けを連続・発展させていく過程において以下の資質や能力を身に付け、豊かにしていく子供である(図4)。

- 既習の造形経験を基にして、形や色、材料等の造形的な要素について理解するとともに、材料や用具の特徴を理解し、それを活用して自分らしい表現をつくる。 [知識及び技能]
- 思いや願いに基づく表したいイメージをもち、どんな形や色、材料等をどんな方法で表したらよいのかを考え、表現(作品)に意味やよさ、美しさを見いだす。 [思考力、判断力、表現力等]
- 表現(作品)に意味やよさ、美しさを見いだし、思いや願いを実現することができた自分に効力感や有能感を味わうとともに、他者の表現に学び、尊重しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

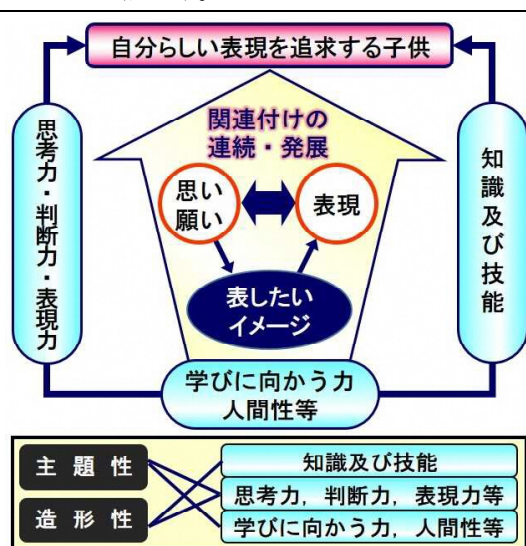


図4：自分らしい表現を追求する子供の姿

三つの資質・能力は、関連付けが連続・発展する過程において相互に作用し合うものであり、本研究で重視する主題性及び造形性との関係は図4に示すとおりである。

3 副主題の意味 —省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫を中心に—

(1) 省察的機能とは

まず、表現のよさや不十分さを掘り起こす。次に、よさや不十分さが生じた原因を分析する。そして、よさをさらに磨いたり不十分さを克服したりする改善の方向性を見いだして、自分らしい表現の追求に手応え・期待感をもつことである。

省察とは、「決断し、行動して、起こった結果を省みて、次の機会に生かす」ということであり、反省に伴う自己否定や自信の喪失というニュアンスはない⁽⁵⁾。結果をもたらした原因となる要素を抽出し、それに適合する打開策を明らかにすることは、「改善点はわかったから、今度はうまくい


引用文献 (4) 文部科学省 (2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』 日本文教出版

引用文献 (5) 畑村洋太郎 (2007)『決定学の法則』 文藝春秋

きそうだ」という手応え・期待感をもつことになる。このような省察が、図画工作科の学習においてどのように機能するのかということについては以下の三つに整理することができる（資料2）。

第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」

海の中につくられたサーキットコースでわくわくしたいな。ビー玉に乗って競争するだけでなく、深くもぐっていきながら、いろいろなめずらしい生き物やできごとを見ることができるんだよ。



気付きをもつ
もっと深くもぐるイメージやめずらしい生き物やできごとに出会う楽しさが伝わってこない。

↓

原因をさぐる
海を連想させるものが少ないし、サーキットコースも緩やかに下っているだけだからじゃないかな。

↓

構想を見直す
サーキットコースに切り返しをつけて、海の生き物を連想させる形を付け加えてみよう。

資料2：図画工作科における三つの省察的機能

三つの機能が働くことによって、子供は必然的に思いや願いに立ち返ったり、形や色、その組み合わせ等の視点から表現を見直したりすることになる。つまり、主題性と造形性を発揮して表現を追求するということである。ここに、本研究で省察的機能を重視する意図がある。

(2) 省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫とは

自分なりの根拠をもって、形や色、その組み合わせ等を選択することができるように、一つの題材の学習過程に、表現についての「気付きをもつ」→「原因をさぐる」→「構想を見直す」という省察的機能が働く中間鑑賞活動を位置付けることである。

図画工作科の基本的な学習過程においては、図5に示すように、鑑賞活動と表現活動を繰り返すことを通して、造形的な見方・考え方を働かせることを重視する⁽⁶⁾。

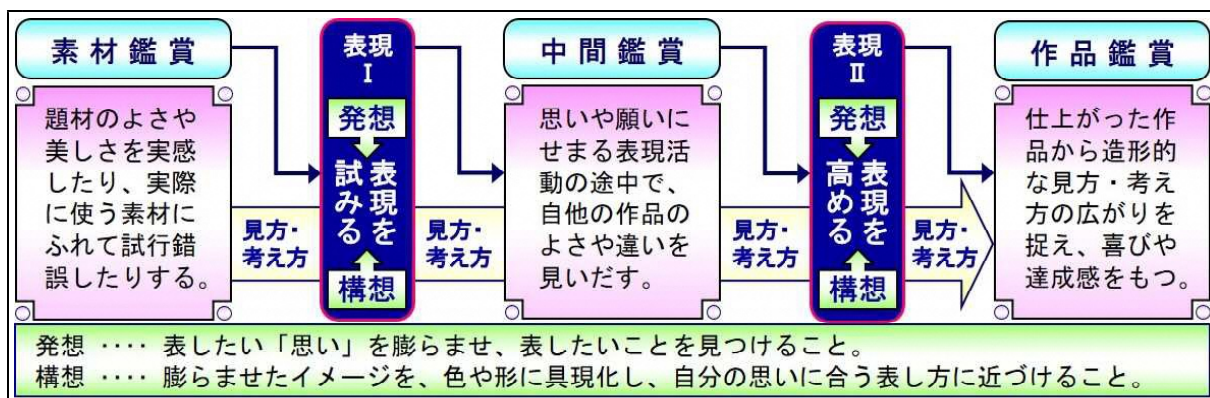


図5：鑑賞活動と表現活動を位置付けた図画工作科の基本的な学習過程

本研究では、中間鑑賞の段階で資料2に示した図画工作科における三つの省察的機能が働くようにする。このことにより、中間鑑賞は、自他の作品のよさや違いを見いだすにとどまらない、関連付けを連続・発展（図2参照）させる活動になるのである。

引用文献 (6) 水田貴久子 (2017)『生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てる授業づくり』 佐賀県教育センター

そこで、「気付きをもつ」→「原因をさぐる」→「構想を見直す」という省察的機能が働く中間鑑賞は、新たな発想や構想をもって表現を高める（図5中の「表現Ⅱ」）ことができるように、以下の視点から工夫することが必要である。

- ・表現のよさや不十分さに関する気付き，造形的な見方・考え方を複眼的に捉えることができるようにする。→「気付きをもつ」
- ・表現のよさや不十分さにつながる形や色等の造形的な特徴を，表現から見いだすことができるようにする。→「原因をさぐる」
- ・形や色等を思いや願いに適合させる方策を選択し，表現を高める見直しをもつことができるようにする。→「構想を見直す」



中間鑑賞のイメージ

さらには，資料3に示すような省察的機能が働く中間鑑賞の具体化を図るようにする。

右に示す中間鑑賞により，資料2に示した表現Ⅰを，よりイメージに合う表現Ⅱに高める。



	あつめる【収集】	くらべる【分析】	みなおす【再構想】
目的	表現のよさや不十分さを掘り起こす。	よさや不十分さが生じた原因を明らかにする。	よさを磨いたり不十分さを克服したりする方向性を見いだす。
内容	思いや願いに基づいたイメージに近づく表現になっているのかということについて話し合う。	表現のよさや不十分さが生じた原因を，形や色等の造形要素につなぎ根拠をもって説明し合う。	思いや願いに基づくイメージに合う形や色等の造形要素を選択し，新たな構想を具体化する。
方法	・造形的な見方・感じ方の違いを生かすことができるようにペアやグループを構成する。 ・モデルの表現と比較してよさや不十分さを収集する。	・思いや願いに基づくイメージに立ち返って，形や色等を分析する。 ・よさや不十分さの共通点，差異点を整理して形や色等を分析する。	・よさや不十分さが生じた原因を踏まえて多面的に捉えた形や色等の観点から構想を見直す。 ・イメージを具現化する方法を選択して構想を見直す。

資料3：省察的機能が働く中間鑑賞の目的，内容，方法

以上のような中間鑑賞の充実を図ることによって，子供は主題性と造形性を発揮しながら，思いや願いと形や色，材料等との関連付けを自分の納得がいくまで繰り返して自分らしい表現をつくり，三つの資質や能力（図4参照）を身に付けることができると考える。

4 研究の目標

図画工作科の学習指導において，自分らしい表現を追求する子供を育てるために，省察的機能を生かした鑑賞活動の工夫を重視した授業づくりの具体的な構想を明らかにする。

5 研究の仮説

学習過程に「省察的機能が働く中間鑑賞」を位置付けた授業づくりを以下の三つの視点から具体化すれば，主題性と造形性を発揮しながら，自分らしい表現を追求し，「できそう」「できる」という効力感や有能感を味わう子供を育てることができるであろう。

[視点1] …… 表現の意味や価値を学び，味わうことができる題材の開発

[視点2] …… 省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成の具体化

[視点3] …… 思いや願いと形や色，材料等との関連付けを促す具体的な支援の工夫

6 研究の具体的な構想

(1) 表現の意味や価値を学び、味わうことができる題材の開発について

思いや願いと形や色，材料等との関連付けを自分の納得がいくまで繰り返して自分らしい表現をつくるためには、「こんなものを表したい」という造形活動の方向性を明確にもち，造形的な見方・考え方に基づいた自分なりの創意工夫をすることが大切である。そこで，資料4に示す主題性，創造性，相互性の観点から題材を開発することを重視する。

主題性 対象や事象に働きかけて，自分で表したい，何かを生み出したいという思いや願いを膨らませることができるか。				第5学年	第6学年
創造性 形や色，材料等の造形的な視点から表したいものをイメージし，自分なりに構想を考え，見直しをすることができるか。		思いや願い 表したいこと		伝えたい，残したい	
				形式美，造形美	
		美しさ，人がもつ感情や心情			
相互性 表現の目的を共有し，互いの表したい思いや願いに共感するとともに，作品についての解釈を深め合うことができるか。	見方・考え方	色	陰影，質感 等	調和 等	
		形	立体感，方向性	変化，統一感	
		材料	視覚的な触感から		
		材料や道具を使う技能	既存の造形的な経験を生かして材料や用具の効果的な組み合わせを多様に考える。		
※ 特に「創造性」については、「どんな」見方・考え方を発揮し，材料や道具等を「どのように」使うことができるのかを，発達の段階を踏まえて分析することが必要である。					

資料4：表現の意味や価値を学び，味わうことができる題材開発の観点

(2) 省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成の具体化について

図画工作科における基本的な学習過程は図5に示すとおり，鑑賞活動と表現活動を繰り返しながら，思いや願いが膨らむとともに，表現の内容が深まっていくようにする。そこで，本研究では，省察的な機能が働く中間鑑賞が効果的に機能し，表現Ⅰを表現Ⅱへ高めることができるように，図6に示す題材構成の具体化を図る。

段階	であう	あらわす	あじわう		
造形的な活動	素材鑑賞	表現Ⅰ	表現Ⅱ	作品鑑賞	
学習活動	[対象にかかわる] よさや美しさの実感，試行錯誤 ↓ <思いや願い> ↓ [表したいイメージ + つくり方，表し方]	<思いや願い> ↓ ・こんな色で思いを表したい ・こんな形で気持ちを伝えたい ・つくり方，表し方 ↓ [造形的な視点]	[よさや不十分さ] ↓ [省察的な機能] 【気付きをもつ】 【原因をさぐる】 【構想を見直す】 → 思いや願い ↓ [手応え] [期待感]	<思いや願い> ↓ ・思いに合うのはこの色だ ・わたしの気持ちを伝えられるのはこの色だ ↓ [造形的な視点]	[作品の意味や価値] ↓ ・思いに合うこの形を見てほしい ・私だから，こんな形を考えることができた ↓ [効力感] [有能感]
	自分らしい表現の追求	関連付けを意識する	関連付けを試行して，「もっと〇〇」な表現にするために，色や形，材料等の魅力を生かそうとする。	関連付けに納得する	関連付けに納得する
資質や能力	主題性，造形性が高まっていく過程で身に付く				

図6：省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成 ※ 太枠は研究の重点

作品鑑賞を位置付けた「あじわう」段階に示した自分なりに納得することができる「作品の意味や価値」は，他者によって与えられるものではなく，自分の見方や感じ方で感じ取ったものから構


成される⁽⁷⁾。そこで、各段階における学習活動については、以下に示す問題解決的な学習過程の積み上げを図ることが大切である。 ※ 太赤枠は、本研究で特に重視する学習活動である。

	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
であらう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象（事象）について話し合い、共通の目標をもつ。 ～の美しさ、～な思いを伝えよう、表そう（思いや願い） ○ 思いや願いに基づく表したいイメージを可視化するとともに、つくり方や表し方の見直しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・表現の内容を選択する ・表現の方法を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 映像や遊びなどの実体験による出会いを工夫する。 □ 具体的なイメージをもつことができるように、お話や設計図等をつくらせる。
あらわす	<ul style="list-style-type: none"> ○ つくり方や表し方の見直しを生かして表現Ⅰをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点をもつ ・形や色等を試してみる この段階に三つの省察的機能が働く中間鑑賞を位置付けて、構想を見直すことができるようにする。 ○ 思いや願いにより適合する形や色等を選択して表現Ⅱをつくり、作品の意味や価値を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・見直した構想を生かしてイメージの具現化を図る ・多様な方法で形や色、材料等の魅力を生かす 	<ul style="list-style-type: none"> □ 形や色、材料を繰り返し試しながら表現を試行錯誤する場を設定する。 □ 「この形だからこの気持ちが伝わるはずだ」というような思いや願いに適合するイメージのモデルを示す。
あじわう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いや願いに立ち返って、表現の高まりを実感したり、作品の意味や価値に納得したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方・考え方の広がりについて話し合う ・自分らしい表現のよさの根拠について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分なりの表現の追求の過程を振り返る観点を示す。 □ 自他の表現のよさについて話し合う場を設定する。

（3）思いや願いと形や色、材料等との関連付けを促す具体的な支援の工夫について

① ICT機器の活用による支援

思いや願いと形や色、材料等との関連付けを促すために、「であう」→「あらわす」→「あじわう」という一連の学習過程の各段階でタブレットPCの活用を図る。タブレットPCの活用の仕方については、資料5に示すパターンが考えられる⁽⁸⁾。

<p>比較 …… 表現に関する情報を比較して造形的な視点を掘り起こしたり、課題を見いだしたりする。</p> <p>収集 …… 発想や構想に基づいて作品をつくるプロセスで、必要な形や色等に関する情報を集める。</p> <p>共有 …… 構想を考えたり、省察的機能を働かせたりする場面で発揮した見方・考え方を共有する。</p> <p>保存 …… 発想や構想をかいた学習ノートを保存したり作品の画像に気付き等を書き込んだりする。</p>	
---	--

資料5：学習過程の各段階におけるタブレットPCの活用例

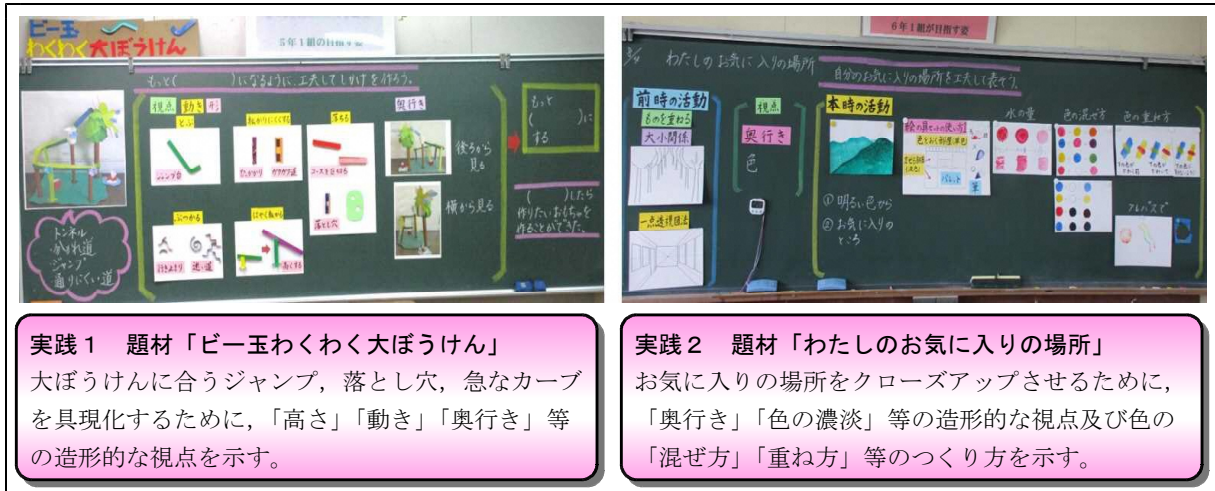
また、タブレットPCを活用することにより、思いや願いに合う形や色等を選択したり、作品を意味付けたり、価値付けたりする場面における個別の支援を充実させることもできると考える。

引用文献 (7) 河合恵 (2013)『見方や感じ方を深め自分なりの意味や価値をつくりだす絵画鑑賞指導の工夫』群馬県教育センター

参考文献 (8) うきは市立千年小学校 (2019)『情報活用能力を身に付けた子どもの育成』うきは市立千年小学校

② 造形的な視点を示唆する板書による支援

タブレットPCの活用とともに、資料6に示すような板書を構成することも、形や色、材料等の造形的な視点への気づきをもたせる上で有効であると考える。



実践1 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」
大ぼうけんに合うジャンプ、落とし穴、急なカーブを具現化するために、「高さ」「動き」「奥行き」等の造形的な視点を示す。

実践2 題材「わたしのお気に入りの場所」
お気に入りの場所をクローズアップさせるために、「奥行き」「色の濃淡」等の造形的な視点及び色の「混ぜ方」「重ね方」等のつくり方を示す。

資料6：造形的な視点を示唆する板書の例

(4) 自分らしい表現を追求する子供の見取りについて

本研究では、具体的な実践を通して、「省察的機能を生かした鑑賞活動」を重視した授業づくりの構想(図7参照)が有効であるかどうかを検証していく。そのために、検証授業の前後で、主題性と造形性に関する子供の育ちを資料7に示すアンケートを用いて見取るようにする。アンケートは4件法でとり、平均値を比較する。

- ・本研究では、主題性、造形性の高まりが、三つの資質や能力を身に付けることになると考える(6頁の図4参照)。
- ・自分らしい表現の追求に効力感や有能感を味わうことに係る項目ウの変容を重視する。

主題性に関して	ア	資料や材料をみて、つくりたいものを想像することができる。
	イ	つくりたいものに合う形や色などを考えるのが楽しい。
	ウ	つくった作品のよさや意味を説明することができる。
造形性に関して	エ	作品を飾ったり、展示の仕方を工夫したりした方がよいと思う。
	オ	物やできごとの特ちょうを形や色から説明することができる。
	カ	想像したイメージに合う形や色などを考えることができる。
	キ	かき方やつくり方をいろいろ考えることができる。
	ク	いろいろな材料や用具の使うことがすきである。

資料7：子供の育ちを見取るアンケートの内容

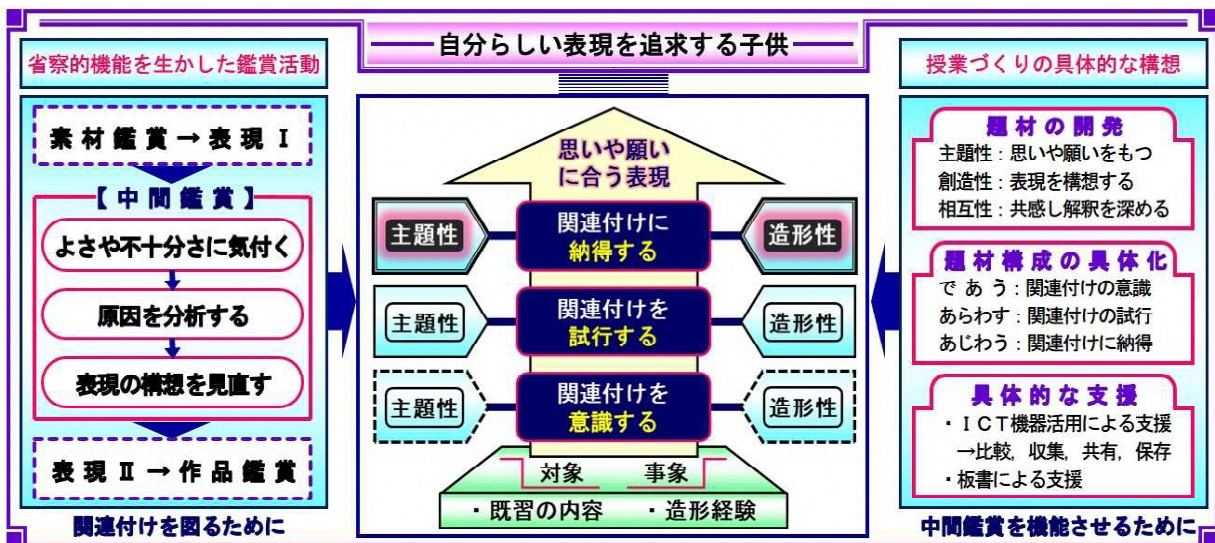


図7：自分らしい表現を追求する子供を育てる図画工作科学習の研究構想図

7 研究の実際

(1) 実践1 第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」 (全7時間)





① 指導の立場

本実践では、自分のつくりたいおもちゃのイメージを膨らませ、ビー玉が転がる速さや向き、意外な動きや見た目の面白さを考えたり、コースや仕掛けの形や色を工夫したりしていく過程で、自分らしい表現を追求することができるようにする。本実践指導の立場は資料8に示すとおりである。

題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ コースの形状や奥行き、障害物の種類、数、配置、色の組み合わせ等の造形的な視点について試しの活動を通してビー玉が転がる作品の仕組みを理解するとともに、材料や用具を使い、落ちる、ジャンプする等の表し方を工夫して、自分がつくりたい作品をつくることができるようにする。 ○ ビー玉の動きの面白さ、ビー玉が冒険する場所やその場所に合うコースや仕組み、どんな材料でつくるかについて考え、自分らしい作品になるように発想や構想をしたり、自分や友達の作品の面白さを味わうことができるようにする。 ○ ビー玉が転がる作品に関心を持ち、「もっとスリルがある」「もっと面白く」等の思いや願いに基づいてついたり遊んだりする活動に取り組み、つくりだせた喜びを味わうとともに、コースの形や仕組みを捉えながら楽しもうとする態度を育てる。 									
	見方・考え方等	<table border="1"> <tr> <td>思いや願い</td> <td>自分が表したいビー玉が〇〇〇を冒険する作品をつくりたい</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">見方・考え方</td> <td>形 ジャンプ台 坂道 くねくねした道 がたがたした道 行き止まり 迷い道 落とし穴 トンネル</td> </tr> <tr> <td>特徴 跳ぶような動き 勢よくぶつかるような動き 転がりにくくする動き はやく落ちる動き</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>色方眼紙 片面段ボール 紙バンド 色画用紙 折り紙 段ボール</td> </tr> <tr> <td>用具等</td> <td>ボンド のり カッター はさみ</td> </tr> </table>	思いや願い	自分が表したいビー玉が〇〇〇を冒険する作品をつくりたい	見方・考え方	形 ジャンプ台 坂道 くねくねした道 がたがたした道 行き止まり 迷い道 落とし穴 トンネル	特徴 跳ぶような動き 勢よくぶつかるような動き 転がりにくくする動き はやく落ちる動き	材料	色方眼紙 片面段ボール 紙バンド 色画用紙 折り紙 段ボール	用具等
思いや願い	自分が表したいビー玉が〇〇〇を冒険する作品をつくりたい									
見方・考え方	形 ジャンプ台 坂道 くねくねした道 がたがたした道 行き止まり 迷い道 落とし穴 トンネル									
	特徴 跳ぶような動き 勢よくぶつかるような動き 転がりにくくする動き はやく落ちる動き									
材料	色方眼紙 片面段ボール 紙バンド 色画用紙 折り紙 段ボール									
用具等	ボンド のり カッター はさみ									
授業づくりの具体的な構想	<p>題材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題性の面から 「ビー玉にどきどき、わうわくする冒険をさせたい」「いろいろな驚きがあるサーキットをつくりたい」という思いや願いを膨らませることができる。 ・創造性の面から ビー玉が転がる道を「形」や「ビー玉の動き」という視点からイメージしたり、大冒険に合う場を想像したりして、自分なりの「ビー玉大ぼうけん」を発想、構想することができる。 ・相互性の面から 「ビー玉大ぼうけん」を交流して遊ぼうという目的を共有し、自他の冒険の面白さ、楽しさを共有することができる。 	<p>題材構成の具体化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【であう 段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビー玉大ぼうけん」を試す。 ・自分なりの「ビー玉大ぼうけん」のイメージをもつ。 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【あらわす 段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大冒険のストーリーに合う表現Iをつくる。 ○ 中間鑑賞をして、新たな構想をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングルっぽさが… ・もっと複雑なコースに ・落とし穴を付け加えよう ○ 新たな構想を生かして表現IIをつくる </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【あじわう 段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビー玉大ぼうけん」で遊ぶ。 ・大冒険のよさを紹介し合う。 </div> <p>※ 各段階の具体的な学習活動は次頁の題材の指導計画に示す。</p>	<p>具体的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCの活用  友達がつくった表現Iを思いや願いと関連付けて、つくりなおす部分について話し合う。 ・造形的な視点を示唆する板書  大冒険のイメージに合う形や場面等の造形的な視点を示す。 							

資料8：第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」における指導の立場


② 題材の指導計画（7時間）

選	主 な 学 習 活 動	具 体 的 な 支 援						
で あ う ↓ あ ら わ す	<p>1 試しの活動から、ビー玉が大冒険をするためのスタートやゴールの仕方、しかけや転がり方を見つけ、コースについて考える。</p> <p>試しの活動からどんな大冒険をするか考えよう。</p> <p>・「大冒険」…わくわくする ・ドキドキする</p> <p>大冒険するおもちゃのイメージをもつことができた。 (コースの形, 障害物の数, 大きさを考えて)</p> <p>2 アイディアスケッチをもとに、土台の形を決め、コースの部品をつくる。(表現Ⅰ)</p> <p>アイディアスケッチをもとに、土台やコースを作ろう。</p> <p>○ 土台やスタートの部分, コースの形状(道や柱)や障害物等を表現主題に合うように工夫して作る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p><ジャングルの冒険></p>  <p>紙バンドをつけ てたくさん貼っ て迷路にしよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p><海の中の冒険></p>  <p>スイスイ泳ぎた いからカーブの コースを作ろう。</p> </div> </div> <p>土台の形や色, コースの形を工夫することができた。</p> <p>もっと〇〇になるように, 一工夫しよう。</p> <p>○ 作品の中間鑑賞をし, 自分や友達の作品のよさや工夫を話し合い, 構想を見直し, さらに一工夫したいところを考える。(中間鑑賞・表現Ⅱ)</p>	<p>□ ビー玉大冒険の学習意欲を高めるために, 教師の試作品で遊ぶことを通して, 材料やコースの違いでビー玉の転がり方が変化することに注目させる。</p> <p>→各グループに試作品を用意しておく。</p> <p>□ 自分なりの表現主題をもたせるために, 自分のおもちゃを構想することが難しい子どもには自分の思いと形がつながるように声をかけたり, 一緒に考えたりする。</p> <p>※ タブレットP Cの活用</p> <p>□ ひと工夫する視点を明らかにするために, 試作品の動画や実物を基に話し合う。</p>						
↓ あ じ わ う	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">あつめる【収 集】</th> <th style="width: 33%;">くらべる【分 析】</th> <th style="width: 33%;">みなおす【再構想】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">ジャングルの中を冒険する楽しさのイメージが伝わらないな。</td> <td style="padding: 5px;">ジャングルだったら, 木が生い茂っていたり, コースが複雑だったりするといいな。</td> <td style="padding: 5px;">トンネルやがたがた道, 落とし穴のコース(形)にしてドキドキ感を出そう。</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  <p>途中にトンネル やがたがた道を作るといいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  <p>分かれ道を作 て, ゴールできな いコースも作ろう</p> </div> </div> <p>・表現主題に合ってきた ・この形がぴったり!</p> <p>見直して, 表現主題に合うものをつくることができた。</p> <p>3 友達の作品と交換して鑑賞会をして, 自分や友達の作品のよさや工夫を伝え合う。</p> <p>・友達のおもちゃは, コースが複雑で面白かった。</p>	あつめる【収 集】	くらべる【分 析】	みなおす【再構想】	ジャングルの中を冒険する楽しさのイメージが伝わらないな。	ジャングルだったら, 木が生い茂っていたり, コースが複雑だったりするといいな。	トンネルやがたがた道, 落とし穴のコース(形)にしてドキドキ感を出そう。	<p>□ 自分なりの表現主題をもたせるために, 自分のおもちゃを構想することが難しい子どもには自分の思いと形がつながるように声をかけたり, 一緒に考えたりする。</p> <p>※ タブレットP Cの活用</p> <p>□ 自分の表現を高めさせるために, 活動がうまくいかない子やもっとこんな活動をしてみたい子には, 表現技能の面から声かけや支援をしていく。</p> <p>※ タブレットP Cの活用</p> <p>□ 作品のよさや工夫点を見いだすために, 自分のおすすめポイントをカードに書いておく。</p>
あつめる【収 集】	くらべる【分 析】	みなおす【再構想】						
ジャングルの中を冒険する楽しさのイメージが伝わらないな。	ジャングルだったら, 木が生い茂っていたり, コースが複雑だったりするといいな。	トンネルやがたがた道, 落とし穴のコース(形)にしてドキドキ感を出そう。						

資料9：第5学年 題材「ビー玉わくわく大ぼうけん」における指導計画

それぞれがつくった物語やアイデアスケッチに表したコースの形やビー玉の動きの特徴を紹介し合うことは（資料12）、思いや願いと形や色等の関連付けの意識を確かめることになる。


・面白そうだね。私は、海の中を大冒険する物語を考えたよ。
・サメと遭遇して逃げる冒険にしようかな。どんなビー玉のコースをつくったらいいと思う？



・ぼくは、魔法使いを追っかけて、いきなりジャングルに迷いこんでしまう場面を考えたよ。
・だから、がたがた道や思いっきりすべる坂をつくろうと思う。


資料12：つくった物語やアイデアスケッチをペアで交流して関連付けの意識を確かめるA児

関連付けを意識すると、実際に表現をして、そのよさや面白さを味わいたくなる。つくった物語やアイデアスケッチの交流により具体化した構想をもった子供は、自分が表したい大冒険の場所になるように土台やコースづくりに取り組む姿がみられた（資料13）。




【土台の台紙を選ぶB児】

「海の大冒険だから、土台も海を想像させる形にしよう。」
「水色の画用紙を貼って、イルカの形に切り取ってみよう。」



【タブレットPCを活用するC児】

方眼紙に切れ込みを入れて形を整えたいので、用具の使い方等が調べられるタブレットPCの資料箱を開く。



【表現を保存するC児】

さらに、1時間ごとの作品をタブレットPCの写真機能を使って保存し、表現を振り返ることができるようにした。

資料13：関連付けを試行する表現Ⅰにおける子供の姿

B児やC児のように、どの子供もつくった物語やアイデアスケッチと材料コーナーやタブレットPCの道具箱機能との間を往還しながら、ビー玉の「わくわく大ぼうけん」に合う形や色、特徴を試し、表現Ⅰをつくることができた。

表現についての「気づきをもつ」→「原因をさぐる」→「構想を見直す」という省察的機能が働く中間鑑賞活動を通して、新たな見通しをもち、表現Ⅱをつくることができるようにする。

ここでは、中間鑑賞活動を構成する「あつめる」（収集）→「くらべる」（分析）→「みなおす」（再構成）という一連の活動を、いきなりペアやグループですることはしない。まず、指導者が作成したモデルの表現で体験してみる（資料14）ことにした。

わたしは、巨大な鳥に捕まり、無人島まで運ばれて、高い木のでっぺんに落とされてしまった。わたしは、当然、下に向かって転がりはじめた。トンネルや分かれ道などを通して、どんどん落ちていった。途中には枝が折れて、道が急に途切れているところもあったな。……………

←—————▶

あつめる（収 集）


- ・ 高い木のでっぺんから転がるのは面白いね。
- ・ スピード感はあまりなさそうだね。
- ・ もっと無人島らしさが伝わった方が面白いよ。

くらべる（分 析）

- ・ コースの後半が平らになっているからスピード感がないんだよ。
- ・ 無人島ならではの「もの」があればいいんだけど。
- ・ コースが1本は少ないよ。


みなおす（再構成）

- ・ もっとコースに高さをだすとスピード感も増すよ。
- ・ コースも1本だけでなく、複数つくれば、面白い仕掛けができるよ。
- ・ 無人島に必要なのは不思議な花だよ。



資料14：中間鑑賞活動のモデル体験の内容

中間鑑賞のモデルを体験することによって、「どんな」よさや不十分さを掘り起こし、「どのように」原因を分析し、「何を」見直せばよいのかを学ぶことができたと考える。そこで、モデル体験後に、A児がペアで取り組んだ中間鑑賞活動を資料15に示す。




A児の思いや願いを確かめながら


	あつめる【収集】	くらべる【分析】	みなおす【再構想】
A児の表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャングルという感じはしないなあ。 ・ さらわれたおじいちゃんのところまで簡単に行けそう。 ・ ビー玉がころがるコースがあまり面白くないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ま女とジャングルの組み合わせがあまりピンとこない。 ・ ビー玉がころがるコースが短いんじゃないかな。 ・ 仕掛けがあまりないからなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャングルじゃなくて、お城に行くことにしよう。 ・ ビー玉のコースをもっと長くして、落とし穴の数を増やしてみよう。

資料15：A児がペアで取り組んだ中間鑑賞活動の内容

中間鑑賞活動で、表現の内容を高める方向性を見いだすことができたA児は、「おそろしいま女から大好きなおじいちゃんを助ける冒険を表したい」という思いや願いに合う形や色、材料等の選択を見直して、資料16に示す表現Ⅱをつくりだすことができた。



「台紙の大きさを変えて、塔の数を増やしてみたら、けっこうお城のイメージをだすことができたよ。それに、落とし穴の数を増やす、コースを長くするという二つのことを付け加えたら、かなりどきどきするコースになったよ。」
・・・表現Ⅱの振り返り



この落とし穴を見て！


資料16：表現Ⅱをつくり、関連付けに納得しているA児の姿

資料16に示しているA児の表現Ⅱの振り返りからは、中間鑑賞活動を通すことによって、思いや願いを具現化するために必要な形や色、材料等を根拠をもって選択し、その選択に自信をもっていることが分かる。つまり、関連付けに納得することができたのである。


ウ あじわう段階（1時間）

自他の作品で遊ぶことで相互に鑑賞し、作品の特徴的な表現のよさや面白さを根拠にして、ビー玉が大冒険する作品（表現主題）について交流する。

「なぜ、こんな仕掛けをつくったのか」「どうして、こういう色を選んだのか」という問いかけに自分なりの根拠を説明する必然性がある鑑賞会を設定し、資料17に示すような姿がみられた。



自分がつくった高低型とは違う「手で持って操作する迷路型」の作品で遊ぶA児。表現主題の説明を聞いて工夫に感心した。




ただ、長いコースだなあと考えていたのが、作品主題をきいて、「なるほど、そういうことか」と納得するD児。

7：色、形、特徴に着目して自他の作品を鑑賞する

ア 子供の姿の変容について

自他の作品で遊んだり、よさや面白さを紹介し合ったりする作品鑑賞をした後、資料7（11頁）に示した子供の主題性と造形性に関する育ちを見取るためのアンケート（4件法）をとった。その結果と学習後の感想は資料18に示すとおりである。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで中間鑑賞会をしたので、つくりなおしの見直しを考えるのが楽しかった。 ・ 自分がつくりたかったのは、こういう形なんだと納得した。 	観点	項目	項 目 の 内 容	実践前	実践後
	主題性に関して	ア	資料や材料をみて、つくりたいものを想像することができる。	2.9	3.3
		イ	つくりたいものに合う形や色などを考えるのが楽しい。	3.1	3.4
		ウ	つくった作品のよさや意味を説明することができる。	2.3	2.9
		エ	作品を飾ったり、展示の仕方を工夫したりした方がよいと思う。	2.8	2.9
	造形性に関して	オ	物やできごとの特ちょうを形や色から説明することができる。	2.7	3.1
		カ	想像したイメージに合う形や色などを考えることができる。	3.0	3.2
		キ	かき方やつくり方をいろいろ考えることができる。	2.8	3.0
ク		いろいろな材料や用具の使うことがすきである。	2.5	2.8	

資料18：主題性と造形性に関する子供の育ちと子供の感想

8項目とも平均スコアは高くなっている。特に、本研究が重視している「つくった作品のよさを説明することができる」（主題性に関する項目ウ）の伸びは大きい。これは、「あつめる」（収集）→「くらべる」（分析）→「みなおす」（再構成）という省察的な機能を生かした中間鑑賞を工夫したからだと考える。しかし、平均スコアが3.0を上回っていないということは課題である。

イ 研究の具体的な構想について

三つの授業づくりの構想が有効だったかということについては、主題性と造形性に関する子供の姿の変容と指導者による作品の評価を踏まえて以下のように整理した（資料19）。

題材の開発	題材構成の具体化	具体的な支援の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ ビー玉が冒険するというファンタジーの題材化を図ったことは具体的な 思いや願いをもたせることになった。また、「ビー玉がどきどきする冒険をつくって楽しむ」という目的を共有することができた。 ・ モデルを提示して可視化したことは、形や動き等の造形的な視点を意識させることになった。 	<p>※ 三つの省察的な機能を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品のよさや不十分さについてペアで話し合わせたことは、複眼的な気付きをもたせることになり、思いや願いと形や色等との関連を多面的に捉えることができた。 ・ 思いや願いと形や色等との関連を多面化する分析を基に、新たな構想を多様な形、つくり方から選択することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットPCの「道具箱」という機能を使わせてので、制作途中の作品の画像や、道具の使い方についての資料を必要に応じて取り出すことができた。 ・ ビー玉の大冒険に合う「高さ」「動き」「奥行き」等の造形的な視点を板書で分かりやすく示したことは、見方・考え方を広げさせることになった。

資料19：具体的な授業づくりの構想の有効性等

ウ 実践2に向けた課題について

実践2に向けての課題は、主題性と造形性に関する子供の育ちに関して、「つくった作品のよさを説明することができる」（資料18－主題性に関する項目ウ）の平均スコアが3.0を上回るように授業づくりの構想を改善することである。そこで、実践1における子供の反応を分析から、具体的な改善のポイントを作品鑑賞における支援の在り方に焦点化する。そして、「～の部分はこの色にしたのは、冒険の〇〇な感じを目立たせたかったからだよ」という説明ができるようにする。


※ 実践1で明らかになった課題の解決を検証する

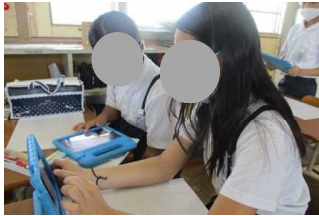

(2) 実践2 第6学年 題材「わたしのお気に入りの場所」 (全7時間)

① 指導の立場

本実践では、自分のお気に入りの場所のイメージを膨らませ、形、色、構図等の表し方を考えたり、これまでの経験を生かして表し方を工夫したりしていく過程で、自分らしい表現を追求することができるようにする。本実践指導の立場は資料20に示すとおりである。

題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が気に入っている場所を、感じたことを大切にしながら、よく観察することを通して形や色、構図、その場所の特徴等の造形的な視点について理解するとともに、描画材料を選び、自分が感じたことを大切に表し方を工夫することができるようにする。 ○ 自分が選んだ場所で感じたことや形や色、構図などの表し方について考え、自分らしい表現になるように発想や構想をしたり、自分や友達がかいた「お気に入りの場所」のよさや美しさを思いや願いと関連付けて味わうことができるようにする。 ○ 自分が気に入った場所について感じたことを大切にしながら表すことに関心をもち、「もっと自分の思いが表れるように」「もっと色の工夫を」等の思いや願いに基づいて表現する活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、自分や友達の表し方のよさや美しさを楽しもうとする態度を育てる。
-------	--

見方・考え方等	思いや願い	自分のお気に入りの場所を工夫して表したい		
	見方・考え方	形		ものの重なり 大小関係 奥行き
		特徴		色の濃さ 色の変化 色の重ね方
	材料	画用紙 タブレットPC デジタルカメラ		
用具等	水彩絵の具 クレパス 鉛筆			

授業づくりの具体的な構想	題材の開発	題材構成の具体化	具体的な支援
授業づくりの具体的な構想	<ul style="list-style-type: none"> ・主題性の面から 「自分だけのお気に入りの場所を表したい」「〇〇な思いを感じる場所を表したい」という思いや願いを膨らませることができる。 ・創造性の面から お気に入りの場所をそこにあるものの「形」「色」「構図」という視点からイメージしたり、自分が感じたことや思い出を想像したりして、自分なりの「お気に入りの場所」を発想、構想することができる。 ・相互性の面から 「お気に入りの場所」を紹介する目的を共有し、自他の作品の楽しさを共有することができる。 	<p>【であう段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お気に入りの場所を探し、その場所での思い出や感じたことを話し合う。 <p>↓</p> <p>【あらかず段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いに合う表現Iをつくる。 ○ 中間鑑賞をして、新たな構想をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・階段の構図が… ・もっと色の使い方を ・色を重ねてみよう ○ 新たな構想を生かして表現IIをつくる <p>↓</p> <p>【あじわう段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お気に入りの場所」を紹介しあい、よさや美しさを見つける。 <p>※ 各段階の具体的な学習活動は次頁の題材の指導計画に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCの活用  友達がつくった表現Iを思いや願いと関連付けて、つくりなおす部分について話し合う。 ・造形的な視点を示唆する板書  お気に入りの場所のイメージから造形的な視点を見い出す。

資料20：第6学年 題材「わたしのお気に入りの場所」における指導の立場

③ 指導の実際と考察


ア であう段階（1時間）

学校の中で自分のお気に入りの場所を探し、その場所の写真を撮り、そこから自分の思いや感じたことを話し合い、自分なりの「お気に入りの場所」を表したいという思いをもたせる。

資料22に示すように、まずは、自分のお気に入りの場所を探させた。場所選びのポイントを事前に説明しておき、写真に撮影する時には、見上げたり、見下ろしたり、斜めや後ろから見たりする等をしてさまざまな視点で撮影させた。その後、自分が撮った写真の中で一番お気に入りの写真を決め、「お気に入りの場所にいるときに、どんな気持ちになるか（なったか）」「お気に入りの場所の形や色の面白さや美しさ」等を話し合い、自分の表現主題のイメージをもたせた。そして、自分が考えたお気に入りの場所をイメージマップにかき出し、膨らませたイメージを形や色、特徴という視点で具体化させ、「お気に入りの場所」の表現主題をもたせていった。

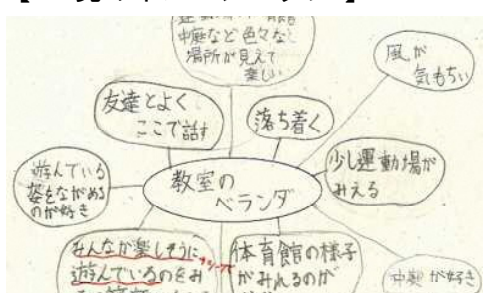
※ 例えば、「友達とよく遊んだすべり台つきのジャングルジム」という表現主題である。

【 お気に入りの場所選びの視点 】		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 造形的な感覚で <ul style="list-style-type: none"> ・形や色が美しい ・構成が面白い ・リズムがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の感情で <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい ・わくわくする ・ほっとする なつかしい ・ゆったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体全体で <ul style="list-style-type: none"> ・音 ・香り ・光 ・風



資料22：お気に入りの場所を探す姿

さらに、自分が選んだ場所がなぜお気に入りの場所なのかを「ひと（誰と）・もの（何を）・こと（どんなことをしたのか）」という観点を示し、言葉で書きとめイメージマップに表した。資料23に示すのはA児のイメージマップである。

【 A児のイメージマップ 】	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いや感じたことについて <ul style="list-style-type: none"> ・風の気持ちよさ ・友達と楽しく話した場所 ○ お気に入りの「形」 <ul style="list-style-type: none"> ・遠くの体育館や運動場を見渡せる建物の形 ・建物の配置 ○ お気に入りの場所の「色」について <ul style="list-style-type: none"> ・晴れている時の緑の美しさ ・淡い色の校舎

資料23：A児のイメージマップから見いだせる造形的な視点

このように、イメージマップにその場所に対する自分の思いや感じたこと、形や色について表現することで、イメージをより具体化させていったのである。

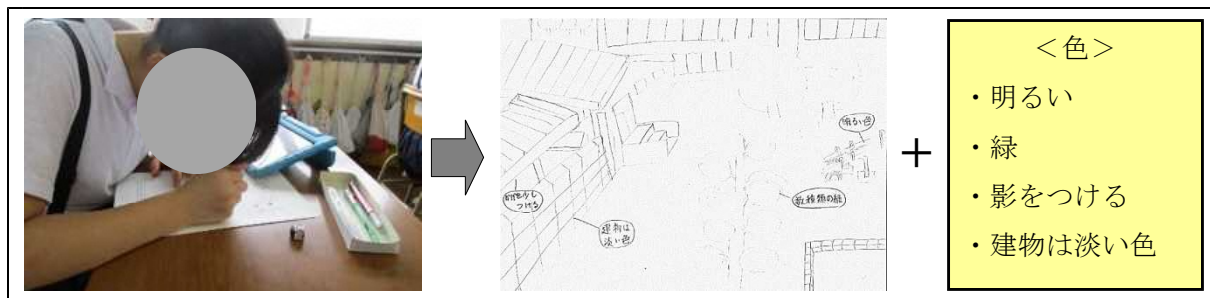
イ あらわす段階（5時間）

それぞれが考えたアイデアスケッチに表したお気に入りの場所を紹介し合って、造形的な視点を広げるとともに、形や色、特徴の視点から具体化した構想を生かして、「お気に入りの場所」を表現することができるようにする。

ここでは、自分が選んだ場所に対する思いや表したいことを交流することで、自分の表したいイメージが具体化され、強い思いをもって作品づくりに取り組む姿が見られた。

※ 思いや表したい場所を交流する場面では、形や色の視点から表したい場所を紹介し合う姿がみられた。つまり、意識した関連付けを交流したのであるが、詳細は省略する。

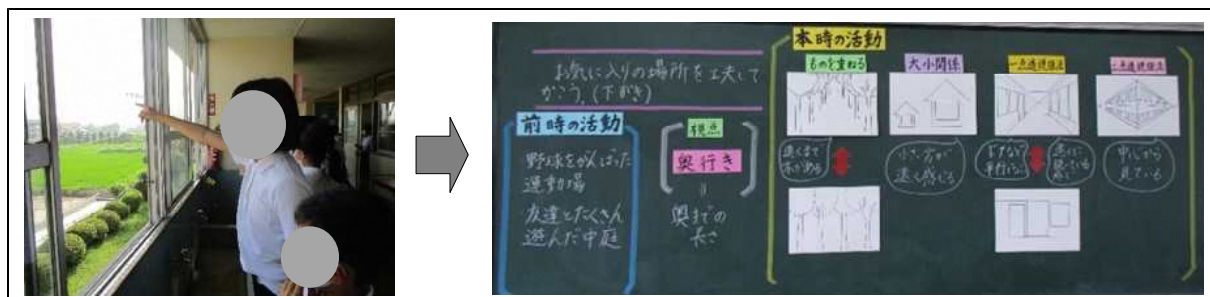
A児は、イメージマップから資料24のように「何を」「どこに」「どのくらいの大きさで」かくのかアイデアスケッチを描き、形や色をスケッチの中に言葉で書きこんでいった。



資料24：思いを強くもって作品づくりをするA児のアイデアスケッチ

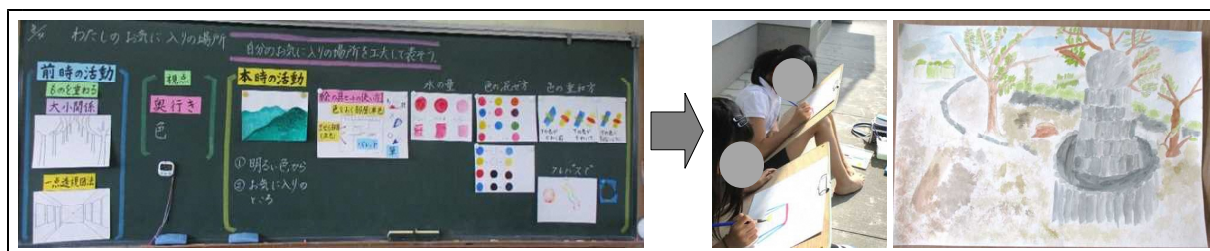
A児のように、どの子供も自分が選んだ場所からイメージを膨らませ、タブレットPCの活用や実際の景色を眺めて、お気に入りの場所の形、色、特徴をアイデアスケッチに表した。

具体的には、「ものの重なり」の視点を見つけるために、重なっている場合と重なっていない場合の下絵を提示して、比較させ二つの表現から感じるものの違いを話し合った。すると、「重ねている方が遠くまで続いているように見える」ことに気付き、奥行きを表すための「ものを重ねてかく」という技法を見い出すことができた。同じように、「大小関係」の技法も見いだし、「ものを重ねる」「大小関係」という技法で奥行きが表現できることを理解していった。また、「一点透視図法」「二点透視図法」も提示し（資料25）、画面構成を工夫して下絵を表すことができた。



資料25：イメージを表すための板書による支援


次に、下絵に彩色をしていった。資料26に示すように、色の混ぜ方や重ね方による表現の違いを提示し、色の塗り方によって、奥行きを表すことができることを捉えさせていった。そして、彩色する順序についても、「明るい色から」「一番強調したいところから」ということを示し、表現Ⅰに生かすことができるように支援した。※ 関連付けを試行することができるようにしたのである。



資料26：色の混ぜ方、重ね方による表現の違いを示した板書と表現Ⅰ



表現についての「気づきをもつ」→「原因をさぐる」→「構想を見直す」という省察的機能が働く中間鑑賞活動を通して、新たな見通しをもち、表現Ⅱをつくる。

中間鑑賞活動では、資料27に示す省察（あつめる→くらべる→みなおす）をペアで行った。

	あつめる 【収 集】	くらべる 【分 析】	みなおす 【再構想】
	A児の表現について <ul style="list-style-type: none"> ・手前の木の大きさが近くにある感じがしないなあ。 ・建物や木々が奥行きを感じる色づかくなっていない。 ・落ち着く感じの表現も伝わらないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の葉の色がどれも似たような色だから、手前にある感じがしないかな。 ・奥にある体育館の屋根の色と渡り廊下の色の濃淡が同じで、よくないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手前にある木の葉の色をもう少し濃くしてみよう。 ・木の色も一つ一つ違っているところを表そう。 ・渡り廊下の色を重ねよう。

資料27：A児がペアで取り組んだ中間鑑賞活動の内容

自分や友達作品を形、色、奥行きという視点をもとに交流し合い、A児は、奥行きを出すための形や色の不十分さに気付いた。そして、色を重ねて濃さを出すことや、大きさを変えることを見直して、資料28に示す表現Ⅱをつくりだすことができた。


	<p>「手前にある木の色を濃くするために、色を重ねてみたら、ベランダから見える景色のイメージをだすことができたよ。全体的に淡い色使いにしたから、落ち着く感じも出せたなあ。」</p> <p>・・・表現Ⅱの振り返り</p>	
--	---	--

資料28：中間鑑賞における「みなおし」を生かしてつくった表現Ⅱ

ウ あじわう段階（1時間）

友達の思いや願いに共感しながら、造形的な視点を根拠にして作品のよさや美しさを見だし、「かけた」「もっとできそう」という効力感や有能感をもつことができるようにする。

はじめに、実践1の課題を踏まえて資料29に示すモデルを示し、作品紹介の仕方を捉えさせた。

	<p>この表現のよさを説明すると・・・</p>	<p>「私のお気に入りの場所は廊下から階段に続くところです。なぜこの場所を選んだかという、毎日通る場所だし、この階段のところをよく友達と話して楽しかった思い出があるからです。階段のところを強調したかったので、少し色を濃くしました。手すりや壁の斜めの構図が難しかったけれど、がんばりました。」</p>
---	-------------------------	---

資料29：作品のよさを説明できるようにするためのモデルの提示

その後、ペアやグループで作品の相互鑑賞をさせると、次のような子供の反応がみられた。

<p>資料</p>	<p>・私は、体育の学習でたくさんスポーツをした体育館を表したよ。</p> <p>・床の色が少し明るいのは、試合に勝ってうれしかったときの気持ちを表したんだよ。</p>		<p>・なるほどね。私は、ベランダから見える風景を描いたよ。</p> <p>・木の色を濃くして奥行きを表したり、全体的に淡い色にして楽しい気持ちを表したりしたよ。</p>
-----------	--	---	---


30：自分の作品のよさを紹介し合う相互鑑賞

相互鑑賞では、「色づかいが美しい」「奥行きをだすために、ものの大きさを変えた構図がいい」というよさを、自分の思いや願いと関連付けて紹介し合う姿がみられた（資料30）。

ア 子供の姿の変容について


実践2における主題性と造形性に関する育ちを見取るためのアンケートの結果は資料31に示すとおりである。実践1におけるアンケート結果との比較から以下の2点が明らかになった。

- ・実践1で見いだした課題を踏まえて、「あじわう」段階では、いきなり作品鑑賞をさせるのではなく、作品の説明の仕方を理解する活動を位置付けた。このことが、思いや願いと形や色、材料等との関連付けるイメージをもたせることになり、自他の作品の意味や価値を自分の言葉で説明することができるようになった。…………… 主題性に関する項目ウ：2.9 → 3.2
- ・自他の作品の意味や価値についての理解の深まりは、他者の思いや願い、造形的な見方・考え方を尊重して、よりよい関係を築こうとする態度の育成にもつながるということである。このことから、自他の作品を丁寧に扱いたい、形や色等の背景にある思いや願いが伝わるように展示したいという意識に高まりがみられたと考える。…… 主題性に関する項目エ：2.9 → 3.4

資 	主題性に関して	ア	資料や材料をみて、つくりたいものを想像することができる。	3.3	3.4
		イ	つくりたいものに合う形や色などを考えるのが楽しい。	3.4	3.6
		ウ	つくった作品のよさや意味を説明することができる。	2.9	3.2
		エ	作品を飾ったり、展示の仕方を工夫したりした方がよいと思う。	2.9	3.4
	造形性に関して	オ	物やできごとの特ちょうを形や色から説明することができる。	3.1	3.3
		カ	想像したイメージに合う形や色などを考えることができる。	3.2	3.4
		キ	かき方やつくり方をいろいろ考えることができる。	3.0	3.1
		ク	いろいろな材料や用具の使うことがすきである。	2.8	2.9

資料31：主題性と造形性に関する子供の育ちと子供の感想

イ 研究の具体的な構想について ※ □ は実践1の課題を受けて改善した構想

題材の開発	題材構成の具体化	具体的な支援の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分だけのお気に入りの場所」をかくということは、第6学年児童にとっては、自己の存在感を確かめるという意味をもち、「思いを込めて表したい」という共通の目的をもたせることになった。 ・奥行きを表現する「ものを重ねる」「大小関係」という新たな技法も生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 実践1の課題を踏まえた「あじわう」段階の改善を中心に ・実践1では、「自分の作品のよさを紹介しましょう」という指示を出すだけだったので、子供も具体的な説明の仕方を理解することができていなかった。 ・そこで、説明の仕方のモデルを提示して、思いや願いと形や色等を関連付けることを捉えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場所に関する情報や思い出をタブレットPCで収集、保存して、思いを膨らませるのに生かすことができた。 

資料32：具体的な授業づくりの構想の有効性等

実践1からの発展については、「題材構成の具体化」と「具体的な支援の工夫」の面から分析した。

- ・「あじわう」段階では、思いや願いと形や色等の関連付けに納得することができるように、「このすべり台がついたジャングルジムではよく遊んでいたの、感謝の気持ちを込めて一番手前にかいたよ」というような紹介の仕方を、モデルを提示して理解させることは有効である。
- ・表現づくりにおいて、「もっと～な色にした方がよい」「この形にしたのは～だから」という情報を収集し、保存する上でタブレットPCの活用が積極的な意味をもつことになる。

造形性を発揮して自分らしい表現を追求する子供を育てる上で有効であると考えている。

② 題材の開発，題材構成の具体化，具体的な支援の工夫の有効性について

ア 表現の意味や価値を学び，味わうことができる題材の開発

題材の開発について重視したことは，子供がどんな思いや願いをもち，どんな視点から形や色等を捉え，材料や用具についてはどんな活用ができるようになればよいのかを見通して，主題性，創造性，相互性の観点を具体化したことである。このことにより，実践1の資料8（12頁），実践2の資料20（18頁）に示したような見方・考え方を明らかにすることができた。見方・考え方を踏まえて，自他の作品のよさや不十分さを分析したり，イメージに合う形や色等を選択したりすることによって，本研究で重視する「関連付け」を連続，発展させることができたと考えている。

以上のことから，表現の意味や価値を学び，味わうことができる題材の開発することは，「省察的な機能を生かした鑑賞活動」の実効性を高める上で有効だと考える。

イ 省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成の具体化

題材構成の重点は，「省察的な機能が生きる鑑賞活動」を，中間鑑賞の段階に位置付けたことである。これまでも形や色等を分析したり総合したりする鑑賞活動を展開していたが，思いや願いに基づく分析や総合ではなかったため，手応えや期待感をもつ鑑賞活動になっていなかった。そこで，本研究では，「あつめる」→「くらべる」→「みなおす」という中間鑑賞の手順を具体化して，思いや願いと関連付ける仕組みを考えた。このことにより，一つ一つの形や色の意味や価値にこだわりながら表現を高めたり，そのよさを伝えたりする子供の姿が見られた。

したがって，省察的な機能が働く中間鑑賞を位置付けた題材構成を具体化することは，「省察的な機能を生かした鑑賞活動」の実効性を高める上で有効だと考える。

ウ 思いや願いと形や色，材料等との関連付けを促す具体的な支援の工夫

具体的な支援の工夫は，ICT機器の活用と造形的な視点を示唆する板書を中心に考えた。ICT機器を活用した形や色等に関する情報の収集，保存及び板書による造形的な視点の可視化は，造形的な見方・考え方を働かせて形や色を選択したり，つくり方や表し方を工夫したりしようとする自分らしい表現の追求を支援することになった。 ※ 各実践の「指導の実際と考察」を参照

したがって，ICT機器の活用と板書を工夫して思いや願いと形や色，材料等との関連付けを促すことは，「省察的な機能を生かした鑑賞活動」の実効性を高める上で有効だと考える。

（2）今後の課題

本研究では，省察的な機能を生かした鑑賞活動を工夫することによって自分らしい表現を追求する子供が育つ指導法の具体化を図った。今後は以下の視点から研究を発展させていく。

- 表現の高まりは，鑑賞活動の質と表裏一体であることが明らかになったので，中間鑑賞だけでなく，導入での素材鑑賞，終末での作品鑑賞の内容と方法を改善すること。
- 主題性や造形性の育ちを表現や作品から見取るための具体的な数値指標を作成すること。